

■特定課題セッション I 報告

「社会福祉教育における専門職連携教育の課題と展望」

コーディネーター：新井利民（埼玉県立大学）

本特定課題セッションは、社会福祉教育における専門職連携教育の実際、及び今後の課題などについて情報共有を行うことを目的に開催し、約 40 名の参加を得た。

第 1 報告は、障害福祉行政に携わる傍ら町田福祉保育専門学校にて社会福祉教育を担っている忠澤智巳氏より、「支援領域の拡充に伴う専門職連携教育について」というテーマで報告があった。社会福祉専門職が支援する領域とニーズが拡大・多様化する中で、様々局面でチームとなって対応しており、これらを専門職教育で教授する必要がある。在学期間の制約、実習における連携場面からの学びの少なさ、教員の臨床経験不足や専門領域の限定などの諸課題があるが、そんな中でも地域社会を意識した専門職連携教育が重要であることが述べられた。

続いて第 2 報告者の大阪府立大学の山中京子氏からは、「連携・協働（コラボレーション）教育を大学教育に位置づける」というテーマで報告があった。同大学では、教育と福祉の融合をコンセプトとする教育福祉学類の設置等の経緯により連携教育を構想し、現在「コラボレーション論」「コラボレーション演習」などを開講している。学生は連携・協働の定義・目的、メリット・デメリット、構成要素、プロセス、コンフリクトとその対応の実際など学び、また自分の専門領域の説明や他の専門領域の理解、葛藤のマネジメントなどを演習形式で学ぶ。今後の課題として、複数教員の講義体制の実現、学外フィールドワーク先の確保、大学組織全体の理解の進展などが挙げられた。

第 3 報告は、川崎医療福祉大学の小田桐早苗氏による「医療福祉デザイン学科との協働プロジェクトを通じた医療福祉学科在学生の学び」という演題であった。すでに同大学には「インタープロフェッション演習」があるが、この演習では焦点化されていない「社会への働きかけ」という観点から、「自閉症の理解・啓発」というテーマで福祉とデザインを専攻する学生が共に学ぶプロジェクトを試行した。自閉症の理解の促進や啓発を進めるための広報ツールの共同制作を通じて、自分の専門領域の視点や役割を再認識し、対立や葛藤を経験しつつもそれを乗り越えて行く様子が述べられた。

第 4 報告は、埼玉県立大学の大部令絵氏による、「大学間連携による専門職連携教育—「彩の国連携力育成プロジェクト」の課題と展望—」というテーマの報告であった。同大学は 1999 年の開学以来専門職連携教育を進めているが、2012 年度より同大とともに、県内の医学・薬学・工学系の大学の学生が共に学ぶプログラムを開発・試行し、その一環で医療機関や社会福祉施設などで大学・学科混合の学生グループが 3 日間過ごす実習を行った。参加した社会福祉学生のレポート分析からは、患者・利用者の家族や地域性を考慮に入れた課題解決を目指して専門性を発揮する一方、情報収集や患者・利用者の理解についてはチーム活動を基礎として気づきを得ており、多職種理解やチーム形成時の対立についても言及があった。

その後、連携・協働のデメリットを教育プログラムでどのように教えるのか、現実の様々な連携の形のすべてを学生に享受することの困難性などについて、フロアからの質問を踏まえて討議した。十分な討論時間ではなかったが、社会福祉教育において連携教育を試みることの必要性やその意義は共有できたと考えられる。報告者及び参加していただいた皆様に感謝申し上げたい。